城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

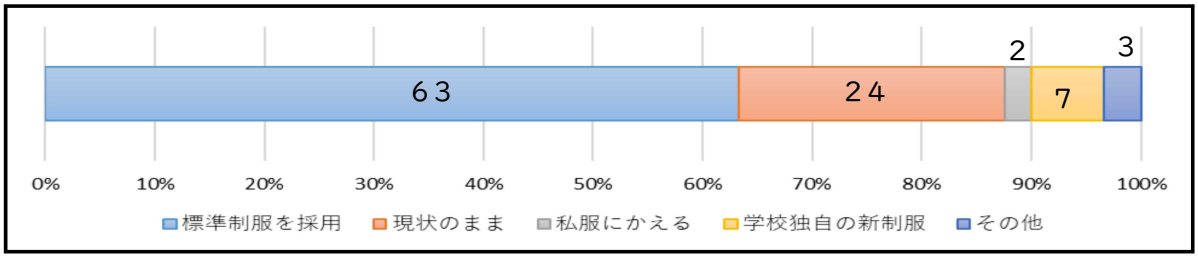
NO.18　2023.2.24

発行者　城東中学校長

TEL　26－7022

伊賀市立中学校標準制服を採用します！

既にブレザー型を採用している上野南中学校以外の、伊賀市の公立中学校の標準制服の導入について、保護者と生徒の皆さんのご意見を伺わせていただいています。現時点（回答数210人）の結果は以下の通りです。城東中学校は、伊賀市立中学校標準制服を採用させていただきます。また、現在新型コロナウイルス感染拡大防止の取組の中で、制服を着用していない現状についてもご意見をいただきました。教育委員会にも助言を仰ぎ、卒業式以降は、制服での登校を原則とさせていただきます。



卒業式について！

本年度の卒業式につきまして、生徒は卒業生・在校生ともに全員が式場に入り、式に参加します。保護者の皆様は2名までを原則としてお願いします。

マスクの着用につきまして、職員・生徒は歌うとき以外は、原則着用しません。来賓・保護者は原則マスク着用でお願いします。ただし、お祝いの言葉をいただく際は原則マスクを外していただきます。

屋外での見送りや写真撮影は、マスク着用の必要はありません。

1年生が人権学習をしました！

2月9日（木）午前に、伊賀市パートナーシップ宣誓制度を利用して伊賀市に移住してこられた、加納さんと嶋田さんから、性の多様性についてのお話をお聞きしました。地域の一員となって暮らしている今の生活のこと。性的マイノリティーについてのことなど、お話いただいた後、相談がある生徒に個別にお話もしていただきました。

【生徒の感想】

●自分は伊賀市はそんなに有名な所ではないと思っていたけど、話を聞いて差別や偏見をなくしていくことに積極的なのを初めて知りました。伊賀に同性カップルがたくさんいることを初めて知りました。それで、それは同性カップルを変わった見方ではなく普通のカップルとして見ているから、違和感がなく過ごせているのではないかと思いました。声を上げてもどうにもならないこともあるかもしれないけど、まずは声をあげていくことが大事とわかったから、自分も思ったことがあったら言ってみようと思いました。

●私は今学校の授業で異性愛だけじゃなくて同性愛についても学んでいるけど、昔は同性愛を教えてもらえなかったと聞いて、今は同性愛の理解が深まっているから勉強できるんだと思いました。自分で思っているくらい深まっているのではないかもしれないけれど、勉強していく中で自分の性の在り方について考えるいい世の中になってきつつあるんじゃないかと思いました。昔はテレビなどではおもしろおかしく紹介されていたと聞いて、今じゃありえないと思いました。もしかしたら、身近にLGBTQの人がいるかもしれないし、その人が打ち明けたくてもできなくて悩んでいるかもしれない、自分に何ができるか考えたときに、打ち明けられるような仲間・クラスになることだと思いました。

2年生が人権学習をしました！

2月15日（水）午前に、（公財）反差別・人権研究所みえの本江優子さんに人権侵害について話していただきました。少し紹介させていただきます。

私が小・中学生のときには人権学習の時間がなかったので、人権について考えてこなかった。高校1年生の1学期に初めて担任の先生から人権の話を聞いたが、人権学習はめんどくさい、難しいと思った。まわりの子たちは小中で勉強していて「小中でやったやん。最悪」と言っていた。」私は、友だちの声にのっかって、「最悪」「めんどくさい」、「自分が差別してないのに、なんで勉強しやなあかんの」と、自分に関係ないことだと思っていた。

高校を卒業してから、2・3年後にこの仕事に就いた。180度考え方が変わった。人権学習をめんどくさいと思っていた私が、なぜずっとここで働いているのか。みんなの学びを振り返りながら考えたい。

人はみんな「A：〇〇な人」「B：差別をする人」「C：差別を受ける人」「D：差別をなくすために行動する人」のどこかに必ず入る。「C：差別を受ける人」について、差別をされるために生まれてくる人は誰一人いない。差別をする人がいるから差別が起きる。でも、「B：差別をする人」も差別をするために生まれてくる人は誰一人いない。なぜ、差別は起きるのか。「A：〇〇な人」の存在がポイント。始めに、Aに当てはまる人を考えてみてほしい。そもそもB・Cの人はいるはずがない。なのに、差別が起きるのはなぜか、それはAの存在があるから。Aの人が何かがきっかけになって自分の気もちをぶつけるときに、Bになることが起こってくる。いつもは何もしていないAの人が、何かをきっかけに勝手な理由をつけて差別してBの人になって、差別されるCの人をつくる。そもそもCの人は存在しない。Bのする人が勝手な理由をつけて差別をつくるからCの人が存在してしまう。Bの人も同じ。そもそも存在しないはずの人。生まれたときから差別をしている人なんていない。

3年生が人権学習をしました！

2月22日（水）午後に、伊賀市教育委員会生涯学習課の川口素生さんから人権について話していただきました。少し紹介させていただきます。

私が働く市役所の仕事は市民の安全・安心を守ることで、それは人権を守ることでもある。しかし、これまでの自分を振り返ると、まわりの人権を大切にできていなかった。自分の勝手な決めつけで弱いものをつくり、弱いものに対してからかったり、攻撃したりしていた。私が変わるきっかけになったのは、人権センターで出会った子どもたちがこれからいじめや差別を受けたら許せないと思うようになったことと、識字学級に通うおばあちゃんたちと出会ったこと。これまでの自分は、その人たちにつらい思いをさせてしまうような行動をとっていたと思う。このままではいけないと思い、生まれてはじめて自分自身を振り返った。仕事や研修を通して部落差別を始めとするあらゆる差別は、今もあることを知った。しかし、知ることだけでは差別はなくならず、なくしていく行動が大切であると思った。差別をなくす方法として、2つあると考える。まずは、「これまでの自分を振り返ること」。人を攻撃してしまいそうになる時、ふと立ち止まって、自分や過去の経験を振り返ることができれば、行動が変わることもある。次に、「人の気持ちを想像すること」。学習や経験から、自分だったらどう思うか、自分に指をさすことが大切。「この世の中のこと全部が自分に関係してる」という意識を持って生活していけば、差別をなくす行動につながる。中学校を卒業したら、もしかすると人権学習が少なくなるかもしれない。それでも自分を振り返ることを忘れずに、差別をなくす生き方をしていってほしいと願っている。